

まえがき

2018年度の地理学野外実習は、2018年9月16日～21日までの5泊6日の日程で実施した。例年と同様、最初の2日間は巡検、その後の4日間は調査実習が行われた。

今年度の参加者は、水谷、小保田、早田、原、平沢、奥山、小林、中村、伊藤、宮本の学生10名と引率の廣内先生を合わせた11名であった。

参加者は各自、新幹線や夜行寝台特急のサンライズ瀬戸、鉄道各線等で現地を目指し、9月16日の9:00にJR琴平駅に集合した。

初日の巡検では、金刀比羅宮を参拝し、丸亀市内で讃岐うどんに舌鼓を打ち、香川用水記念公園等を見学し、「あわの抄」で一泊した。二日目は大歩危、平家屋敷民俗資料館、祖谷の蔓橋を見学し、池田高校付近と太刀野では中央構造線を観察し、長尾衝上断層の路頭を見学した。普段学習している自然科学だけでなく、歴史的建造物などの人文科学にわたる幅広い分野について巡るコースとなった。

調査実習は香川県高松市を拠点とし、「ホテル三友荘」に宿をお世話になった。三日目より、各自が事前に準備をすすめていたテーマに沿って、各々調査を実施した。調査はため池の分布や高潮の被害調査、防災意識など様々なテーマに取り組んだ。単独の現地調査や聞き取り調査など、普段大学内だけではなかなか経験することのない調査もあり、限られた時間の中で、実習前には3回、実習後には4回指導会が開かれ、廣内先生の丁寧なご指導をいただきながら、資料の分析、まとめを行い、得られた成果を本報告書にまとめている。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、ヒアリング等にご協力をいただきました各行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心から御礼申し上げ、感謝の意を表します。

令和2年3月

原 知弘（信州大学教育学部自然地理学研究室 OB）

2018年度地理学野外実習報告書VI

香川

【目次】

まえがき

ため池分布の地理的特徴と放棄実態の調査 —丸亀市綾歌町を事例に— 1
中村祐希

香川県中讃地域における水害の意識調査 9
小保田春加

香川県坂出市における津波に関する住民の意識調査 17
小林晴佳

地域別にみる高松市内の防災の現状と児童への影響 24
奥山加蘭

高松市におけるまちなかループバスの利用実態と市民への影響 38
伊藤三津子

商店街活性化の成功例 —高松丸亀町商店街— 52
宮本光貴

あとがき